

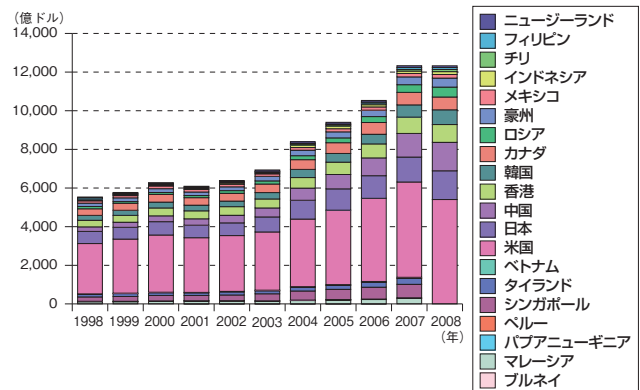
### (3) 相互補完性の高いAPECの貿易構造

APEC参加国・地域の輸出・輸入品目の構成を確認すると、域内には機械、天然資源や食料などのその他一次産品の供給国と需要国が混在している（第2-6-1-6図）。機械については、日本、フィリピン、シンガポール、韓国等、東アジア地域を中心に輸出割合が大きい一方、豪州、ロシア、チリ、ペルー等では輸出割合が小さく、輸入割合が大きい。逆に、天然資源については、豪州、ロシア、カナダ、チリ等で輸出割合が大きく、日本、韓国など東アジア地域では輸入割合が大きい。このように、東アジア地域と比べ、APEC地域は貿易補完性の高い関係にあり、今後、域内で自由化、円滑化、協力が進めば、域内貿易がさらに活発になることが予想される。また、域内貿易の拡大は、輸入先の多角化を通じ、アジア地域における安定的な資源や食料等の確保につながるものと考えられる。

また、サービス貿易についても、APEC参加国・地

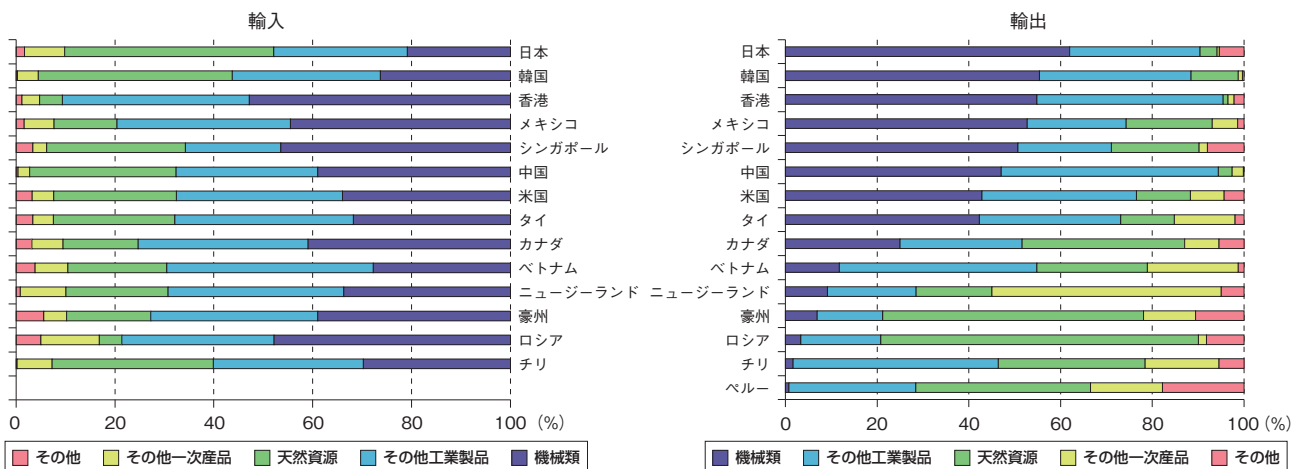
域のサービス輸出は拡大している（第2-6-1-7図）。さらなるサービス貿易の拡大に向けて、関連規制の緩和・撤廃等が期待される。

第2-6-1-7図 APEC参加国・地域のサービス輸出額推移



備考：パプアニューギニアは2005年まで、ブルネイは2006年まで、マレーシア、ペルー、シンガポール、タイ、ベトナムは2007年までのデータ。資料：世銀「WDI」から作成。

第2-6-1-6図 APEC参加国・地域の貿易構造（2008年）



備考：SITC1桁分類により、機械類＝第7部、その他工業製品＝第5、6、8部、天然資源＝第2、3部、その他一次産品＝第0、1、4部、その他＝第9部とした。資料：国連「UN Comtrade」から作成。

## 2 アジアから広がる地域経済統合

### (1) ASEANを中心に広がるEPA/FTA網の構築

広域経済統合の進展は、域内の工程間分業の促進、生産拠点の集約・最適配置、規模の経済を通じた経済全体の効率性を上昇させるなど、域内産業の国際競争力強化が期待される。こうしたことから、アジア地域においては、ASEANを中心にEPA/FTA網の整備が進んでいる（第2-6-2-1図）。日本とのEPAは2008年に発効、中国とのFTAは物品分野（2005年）、サービス分

野（2007年）が発効、韓国とのFTAは物品分野（2007年）、サービス分野（2009年）が発効、インドとのFTAは2010年に発効、豪州・ニュージーランドとのFTAは2010年に発効と、ASEANをハブとしたFTA網が着々と整備されている。また、アジア地域では、日中韓3か国FTA（2010年から産官学共同研究開始）、「ASEAN + 6」（2007年から民間研究開始）、「ASEAN + 3」（2005年から共同専門家研究開始）など、広域経